

研究通言

NO. 7

村塾社会研究会本部
編集部 輄都文京区本郷1丁目1
東京大学文学部
社会学研究室

宿題と大会のむち方に關して二つの意見がある。かりに会員A氏とB氏としておきたい。こゝに西氏の意見をかげて、会員諸氏のこの両者についての質否をあうかゞしたいと思う。

A 氏の場合

今年の仙台大会で宿題の共同討議が余り効果的に進行しなかった事が認められたので、来年度はどうするかについて協議会でも相当問題が生じ、西尾決定を見るに至らなかつた。そして研究通信できめるといふ事になつたので、その時対立した二説について会員諸兄の賛否を向う争になつた。全体の傾向としては、農地改革の村落改造に及ぼした影響という今年の課題をもつと深める意味で今年限りの問題としてしまふには惜しいから、この問題を底流として持ち残ら、もつと両面の焦点をしづら方方が良いという事になつたが、この焦点を非常にはつきりした一点に集中するか、それとももつと含みを持たせて、余りはつきりしない方方が良いという事になつたわ

けである。後者としては、村研究成後余り時日も経ておらず、各地方に散在する人達が、夫々の問題を持つて思いよくに研究して来た從来の行がより強いため、はつきりした一つの課題に集中してしまふと参加する事が困難な人々もあるのではないかと思う。うので、焦點をかなり限定せても、余り厳密に一点に限定しない方が良いのではないかという意見である。

協議会では、家族、町村合併、兼業等の問題で、その角度から研究発表をして討論参加が出来たと思う。或は村の指導者の問題に关心を持つ人はその点から参加出来るので、家族の問題はいろいろな点から追求され得る。今の所余り狭く焦点を限定すると窮屈になると想うので含みを省く。

二つの意見

宿題と大会に関する

宿題と大会に関する 二つの意見

せる方が良いと思うのである。
研究発表及討論について、かりに非常に明白に焦点が限定されていたとしても、今後の状況では必ずしもうまく展開されないかも知れない。それは研究者の発表は多くの地区で個人的になされ、大会に完全然個人的な事が多いから、全体としては比較的多岐に向題が提出される傾向である。これは各地区的共同研究が一部までのそいで成立していないからである。もし将来各地区的共同研究、共同討議が出来ていて、各地区で大会の研究発表者をきめて、大会に臨む事が出来るようになると、大会の運営ははるかに能率的、効果的になるのだと思われる。支部と云わなくても、共同研究のグループとして各地区が大きく活動するようになると思われる。宿題のきめ方にも困難は少くなると思うので、会員諸兄の御考えを頂きたい。

B 氏の場合

本年度の第一回大会は、意外なほど多数の参加者がおり盛會であった。非常にころこばしいことである。

しかし、大会のどちらは、必ずしも成功ではなかつた。というのは、報告者の数が多かつたことと、討論が有効でなかつたからである。

そこで、私は來年度の大会のどちらについて、私見を述べ、会員諸氏の御検討の資

としたいと思う。

その第一点は、報告者の数をもう少し減じるとともに、報告時間は厳守するようにし、討論の時間となるべく多くすることである。そして、その報告に対する質疑は報告直後すませることにし、総合討論では十分に問題について討議をすることができるようにしてほしいと思う。一般に討議のはあいには、細かい質問や技術上の質疑は、個人的にやることにして、総合討論はもちろん報告後の質疑討論も、共通のテーマに集中するようにすべきである。

第二点は、以上の二ことと関連するが、共通のテーマについて十分な討議ができる、新しい収穫を得てかえることができるためには、テーマをしばつた方がよいと思つて、テーマをしばるということは、一見して参加者が少くなるようと思われるが、たとえば、「農地改革による地主権力の変貌」というようにしばると、これは各等諸分野から共通的に研究できるし、いろいろの村について研究しうるはずである。そうすれば、報告しない人々も自分が調査した村でないことがあつた、という形で討論に参加でき、各種の調査が出しあわされて、比較分析が行われ、理論的な収穫を得て会を閉じることができる。本年のような形では、報告大会にはなつても、研究大会にはなりがたい。報告時間は限定して参加者が討議に活潑に参加できるためには、報告者の報

告主題が明確でなければならぬと同時に、討論すべきテーマも集中できるように限られなければならない。

以上の意見には、もちろん短所もあるが、要は、村研の大会が、一般的の学会大会のようになるべきでないとすれば、多少の欠點はあっても、集つた人たちが有効な発言をしてお互に收穫をわかちあえるようになりたいというふうである。どうか、尼権な御意見をおよせいただきたい。

以上AB両氏の意見に対する賛否と同時に、今年度の宿題を何にすべきかの御意見を是非本部までお寄せいただきたい。

研究通信編纂委員会